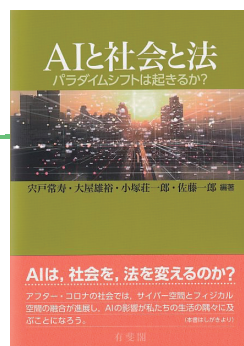


AI と社会と法

——パラダイムシフトは起きるか？

穴戸常寿 = 大屋雄裕 = 小塚荘一郎 = 佐藤一郎 編著

2020 年 8 月発売 / 368 頁 / 本体 3400 円 + 税
A5 判 / 並製



編集
担当者
から

スマホアプリをはじめ、日常生活の様々な場面で「AI」という言葉を耳にするようになりました。AIは、現代社会の課題を解決することに期待が寄せられる反面、そのリスクにも注目が集まっています。AIには、どのようなリスクがあり、それが社会に与える変化、さらにその変化に対して、法はどう対応していくのか。本書は、公法・法哲学・私法といった法の専門家と工学者も含めたレギュラーメンバーである編者が、各テーマに精通したゲストとともに、現在の状況から未来を考え、そこに潜むリスクへの対応を座談会形式で話し合うものです。そこには、契約の基礎理論や不法行為責任といった基礎的なものから、著作権法など、法実務に直結するものも含まれています。大学の講義で学習した内容の理解をさらに深める素材として、あるいは今後の自分の仕事や働き方を考えるための素材として、是非あなたなりの活用方法で読んでみて下さい。(YY)

Index



第1章と第10章は、編者のみによる議論です。仮面ライダーの話題も登場しますよ！

- 第1章 テクノロジーと法の対話
- 第2章 データの流通取引——主体と利活用
- 第3章 契約と取引の未来——スマートコントラクトとブロックチェーン
- 第4章 医療支援
- 第5章 専門家責任
- 第6章 著作権
- 第7章 代替性——AI・ロボットは労働を代替するか？
- 第8章 サイバーセキュリティ
- 第9章 フェイクとリアル——個人と情報のアイデンティフィケーション
- 第10章 これからの AI と社会と法——パラダイムシフトは起きるか？

※小社ウェブサイトの本書のページもご覧ください。

